

日本と世界の平和のために

四街道・9条の会

ニュース

199号

2021年 12月9日

発行者 林 孝

連絡先 Tel・Fax 043-432-2593

12月の案内!

四街道市核兵器廃絶平和都市宣言38周年の『平和と文化のつどい』が下記の予定で開催されます。お誘い合せてご参加ください。

平和と文化のつどい

～伝えよう平和! 未来に生きる子どもたちと～

1. 日時 **12月12日(日)** 開演13:30 (開場は12:45)
2. 会場 **四街道市文化センター 301・302号室**
3. つどいの予定

- 挨拶 (実行委員長・市長・教育長)
- 伊佐勉さんの歌とお話
- 被爆者 児玉三智子さんのお話
- 映画『おかあさんの被爆ピアノ』上映時間133分
ストーリー

76年目のいま 蘇った音色が私たちに語りはじめる

昭和20年8月6日に広島で被爆したピアノの持主から託された調律師・矢川光則(佐野史郎)も被爆2世。

爆心地から3キロ以内で被爆したピアノを被爆ピアノと呼ばれる。矢川は、現在数台の被爆ピアノを託され修理、調律して、それお自ら運転する4トントラックに載せて全国を回っている。

東京で生まれた江口奈々子(武藤十夢)は大学で幼児教育を学び幼稚園教諭を目指しているものの将来について漠然としている。被爆ピアノの一台を母・久美子(森口瑤子)が寄贈している事を知った奈々子は被爆ピアノコンサートに行き、矢川と出会う。矢川を通じて被爆ピアノ、広島のことを考えるようになり、祖母のことを知るうちに自身のルーツ探しをしていく。

母・久美子はどうして広島から出て行ったのか?

祖母・千恵子が奈々子に伝えたかったこととは?

調律師・矢川がなぜ被爆ピアノを伝える活動をしているのか?

奈々子はルーツを辿り、被爆ピアノの活動を辿りながら何かを見つけていく……



4. 参加券 500円 (小中高生は無料 当日券はありません)

※定員は75名 (コロナ関連での中止の場合のみ払い戻しをします。マスクは必ず着用 受付での検温・消毒や参加券に氏名等の記入にご協力ください)

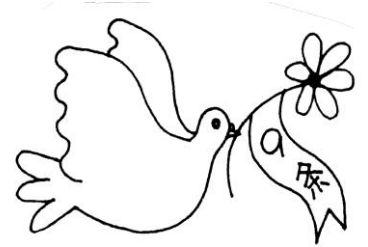
5. 主催 四街道市核兵器廃絶平和宣言38周年「平和と文化のつどい」実行委員会

6. 後援 四街道市・四街道市教育委員会・社会福祉法人四街道市社会福祉協議会 公益財団法人四街道市地域振興財団・千葉県原爆被爆者友愛会

11月の例会から！

11月の例会は『総選挙の結果と改憲』をテーマで開催し、5名が参加しました。

参加者から、5分程度でスピーチをしてもらい意見交換しました。



- ・小選挙区制では、自公連立に対して野党の共闘が弱かった。
- ・もともと野党に不利な小選挙区などの制度に加え、反共攻撃に根強い。ものがあって、票に影響するのは紛れもない事実。
- ・小選挙区制あたかもが良いかのように言われ、以前の3～5人の選挙区のときは保守の中にも平和憲法を擁護する人々がいた。
- ・選挙区制そのものを考え直していかなければならない。政権を握るという点ではメリットもある。
- ・政権党の有力議員が落選したことには驚きがあった。足元での市民運動が進んでいるところの成果で一定の力がでてきたとき、周りの人々がついてくる。
- ・政策面では「ジェンダー平等」や「気候変動」などは新しく重要なものとして素晴らしい政策だ。市民連合の6つの共通政策や共産党の政策に位置付けられて、ものの見方・考え方の世界に一石を投じたのではないか。
- ・千葉9区は一本化に時間がかかったが、野党統一候補が当選した。憲法に対する考え方については今後の動向を見ていかなければならない。
- ・維新の会はすみわけをきちんとしていて、自民から名簿をもらって、電話戦略。
- ・国会で活躍した女性候補を落選させてしまったことは誠に残念。
- ・年寄りや子供向けなど、階層別の政策が多いが、時代を変えていく政策が必要。
- ・共産党は10年先、100年先までの政策を出している。
- ・4野党の政策の中味は国民にとってはプラスなのに、なぜ支持してもらえなかったのか、反共攻撃がすごかった。

総選挙の結果について（各界・知識人から）～私はこう見る

- ・武蔵大学教授・元NHKプロデューサー（永田浩三さん）～市民と野党共闘にこそ未来
- ・弁護士（角田由紀子さん）～ジェンダー平等に光当たった
- ・法政大学名誉教授（五十嵐仁さん）～民意は「安倍・菅継承ノー」
- ・気候アクティビスト（uka(ゆか)さん）～気候変動が世論にかなり浸透
- ・元公明党副委員長（二見伸明さん）～野党共闘進化・深化こそ
- ・「戦争させない市民の風北海道」共同代表（山口たかさん）～共闘の中味をもっと伝える
- ・市民連合（中野晃一さん）～野党共闘の威力大いに発揮
- ・元参議院副議長（立憲民主党・弁護士）（角田義一さん）～いまこそ野党共闘の旗高く
- ・高千穂大学教授（政治学）（五野井郁夫さん）～一本化による訴求力は絶大
- ・総がかり実行委員会共同代表（高田健さん）～たしかな手ごたえ課題も
- ・元外務省国際情報局長（孫崎 享さん）～野党共通政策いまこそ重要
- ・元文部科学省事務次官（前川喜平さん）～憲法守る政治に引き戻せ

憲法をめぐる動き

岸田政権が、憲法9条の改定にむけた危険な動きを強めています。任期中に改憲を地湧言すると繰り返している首相は、自民党の「憲法改正推進本部」を「憲法改正実現本部」に改組して体制を強化し、国会での憲法議論の加速化を企てています。衆参の憲法審査会で改憲案をまとめ、国民投票に持ち込むことが狙いです。

総選挙後の新たな局面の下で、9条改憲を許さない世論と運動を広げることが急いで求められます。

安倍元首相が言いだした9条改憲は、憲法に自衛隊を書き込むことで9条の戦力不保持・交戦権否認の規定を空文化・死文化させて、自衛隊が大手を振って海外での戦争に参加できるようにするものです。自民党内では自衛隊が「敵地攻撃能力」を保有することや軍事費の大幅増額など、9条破壊の動きも相次いでいます。改憲と連動して日本を「戦争する国」に変えようとする、危険なたくらみです。

「岸田改憲」を阻むため草の根からのたたかいがいよいよ重要となっています。

「9条改憲ノー」「9条生かした平和外交を」の声と運動を、今こそ強めていきましょう。

野党共闘の発展こそ政治を変える確かな力

千代田 矢野吉宏

総選挙が終わって1月が過ぎました。私は千葉9区市民連合としても選挙戦にかかわってきました。改憲に執念を持ち、新自由主義路線をひたすら進めてきた安倍政権とその継承政治がコロナ禍で破綻があらわになり、その政治の継承を否定する世論が7割を占める中での選挙でした。

自民党は総裁選戦でマスコミをハイジャックし、その流れで超短期の選挙を企みました。

これに対して野党側は、公示直前とはいえ、政策及び政権合意に基づく「選挙協力」を行い、「自公」対「野党共闘」の選挙に持ち込みました。選挙戦中盤の状況ではマスコミ報道でも劇的な変化が起こりうる状況でした。これに危機感を持ったしはい勢力が激しい「野党共闘」攻撃を行いました。千葉9区でも、河野太郎氏の肉声テープによって、「自由と民主主義の政権か、共産主義を持ち込む政権か」の「体制選択選挙」だとデマ宣伝を繰り返し行いました。

選挙結果はこうした攻撃のもとでも59選挙区で勝利し、32選挙区であと一歩まで迫り、県内でも9区の奥野総一郎氏の勝利を含めて4選挙区で野党が勝利しました。

選挙後、支配勢力と一部マスコミは「共闘失敗」を印象付け、立憲民主党の党首選挙の最大争点を「共産党との共闘をどうするかだ」だとして、引き続き「共闘攻撃」を続けました。そのねらいは、7カ月後に迫った参議院選挙での「共闘破壊」にほかなりません。現行の小選挙区制の下で自民政治を打ち破る道は「野党共闘」をさらに充実させることだと思います。

国民主権に反する改憲審査会議論

選挙結果は、選挙区の奮闘にもかかわらず、政権批判が維新などに流れたこともあって、改憲勢力が3分の2を超える334議席を確保するという憂慮すべき事態になりました。

早速、岸田首相は「憲法改正への国民的議論のさらなる喚起と国会における精力的な議論を行うよう党内に指示」し、自民党は「改憲推進本部」を「改憲実現本部」に「格上げ」しました。これに呼応して「維新の会」は、来年の参議院選挙と抱き合わせで改憲の「国民法票の実施」を言い出し、国民民主党を抱き込み、あわよくば立憲民主さえ「憲法審査会での改憲議論」に引きずり込もうと画策し、憲法審査会での議論しないのは国会議員の“任務放棄”などと暴言を繰り返しています。

しかし、こうした改憲への言動は、憲法の「国民主権」を冒瀆するものです。憲法改正は主権者である国民多数の意思があつ初めて議論されるべきものであって、国民が望みもしないのに、憲法順守義務を負う国会議員が勝手に憲法改正に前のめりになること自体「立憲主義」「国民主権」に反するものです。国民の意思はどうか。総選挙前に行ったNHKの世論調査によれば、国民が期待する政策は「経済」「コロナ」「社会保障」対策が合わせて77%であつて、「憲法改正」は3%に過ぎないのです。にもかかわらず、“改憲”を騒ぎ立てるのは、憲法9条の改変を行い、再び戦争できる国に戻そうとたくらんでいるからにほかなりません。

改憲ストップへ、草の根の市民運動と野党共闘を

こうした状況下で「9条の会」が11月12日に声明を出しました。これまで「改憲ストップ」させてきた力は「市民の草の根からの運動や市民と野党の共闘であつたとし、新たな改憲の運動に待ったをかけるのも、この市民と野党の共闘以外にはありません」と強調しています。

『戦争させない！四街道の会』は2015年9月19日の「安保法制強行採決」以来、毎月「19日行動」を行い、2年前からは、「9区市民連合：四街道」と共同で行動してきました。『改憲ストップ！』の新しい署名に取り組み、来年の参議院選挙では「政権交代の足掛かりを築く」ことをめざして頑張らしましょう。

総選挙後の改憲問題の新たな局面を迎えて（九条の会 声明）

2021. 11. 12 九条の会

10月31日に衆議院議員選挙が行われ、自民党は議席を減らしたものの単独過半数を維持し自公政権の存続が決まりました。維新の会の大幅議席増により自公と維新を合わせた改憲勢力は334議席となり、衆議院の3分の2を超える議席を獲得した結果、改憲問題は、新たな局面を迎えました。

岸田文雄首相は、自民党総裁選の最中から「任命中の改憲実行」、「敵基地攻撃能力」保有の検討を繰り返し表明しました。それを受けて総選挙に向けての自民党公約も、「敵基地攻撃能力」保有、防衛力の大幅強化と並んで、「早期の憲法改正」の実現を明記していましたが、総選挙の結果を踏まえて、岸田政権は、安倍政権以来の改憲策動の強化に踏み切る構えです。岸田政権がまず手をつけようとしているのは、安倍・菅政権が推進した9条破壊の加速化です。

対中国の軍事同盟強化を目指した「国家安全保障戦略」と「防衛計画の大綱」の改定を来年末までに強行し、中国を年頭においた「敵基地攻撃能力」の保有、日米共同演習の強化、そして辺野古基地建設強行などを推し進めようとしています。同時に、岸田自民党は、憲法9条明文の改憲にも踏み込むべく、臨時国会における憲法審査会での改憲案討議入りを狙っています。

維新の会松井一郎代表の「来年参院選と同時に改憲国民投票を」という発言や国民民主党との憲法審査会毎週開催合意は、こうした自民党の明文解釈への策動を応援するものです。

しかし、日米軍事同盟強化と改憲という途は、米中の軍事対決・挑発を激化させ、日本と東北アジアの平和の実現に寄与するどころか、それを遠ざけるものです。明文改憲、9条破壊の策動を阻止しなければなりません。

九条の会をはじめとした市民の草の根からの運動は、自民党などによる改憲の企図を阻み続けてきました。とりわけ、安倍政権下、衆参両院で改憲勢力が3分の2を占めて以降も、市民と野党の共闘の頑張り、幾次にもわたる全国統一署名運動、それに鼓舞された立憲民主党の奮闘により憲法審査会での改憲案審議を行わず、19年参院選で改憲勢力3分の2を打ち破って安倍改憲を挫折に追い込みました。

来年の参院選に向けた新たな改憲の動きに待ったをかけるのも、この市民と野党の共闘以外にはありません。この力に確信を持って、市民の皆さんが、改憲と9条破壊の阻止のため、決意を新たに立ち上がられることを訴えます。

「お知らせ！」

★「戦争させない！四街道の会」宣伝・署名活動

- ・12月19日（日）ヨ一カド一前（11：00～12：00）
- ・新しい「**憲法改悪を許さない全国署名**」に取り組みます。



★ 四街道・9条の会

- ・12月9日（木）はいつもの駅頭宣伝（午後5時半～6時、スタンディング）
- ・12月23日（木）の『**12月の例会**』はありません。

『催し案内！』

●第14回『わかば新春平和と文化のつどい』

1. 日時 2022年1月23日（日） 開演14：00
2. 会場 若葉文化ホール（モノレール「千城台駅」下車 徒歩3分）
3. 参加費 500円（お問合せ・チケット購入 tel&fax 043-255-3904 木村）
4. 主催 わかば新春平和と文化のつどい実行委員会